

「全校体制」で学力向上・生徒指導の充実を！

西部教育事務所では、子どもたちが“明るく元気に学ぶ学校づくり”を目指して、組織的・継続的な学力向上・生徒指導の取組をお願いしています。学校の各計画に基づき、委員会等の機能を生かして、「全校体制」で学力向上・生徒指導のさらなる充実を図りましょう。

PDCAサイクルを生かした学力向上対策に取り組みましょう

確かな学力の向上に向けて、学力向上の4つの視点を基に取組内容を決め、主担当や全教職員の役割分担を明確にし、学力向上計画を共通理解して組織的に学力向上対策に取り組む学校が増えています。学力向上委員会の機能を生かして、各取組の質の向上を図ることが今年度の重点です。

事務所では、学力向上リーフレット「PDCAサイクルを繰り返し、子どもの学力向上に努めましょう」を作成しました。取組の質の向上を図るには、学校の取組内容や子どもの実態を基に、目標値を設定することが重要です。目標値に対する達成度を評価することで、客観的に子どもの変容を把握することができます。また、目標が具体化されていることで短期間のサイクルで取組を評価することが可能になり、教師も子どもも成果を実感することができます。そして、課題が明らかになった場合には、学力向上委員会で課題の原因を明確にして改善策を講じることで、その後の取組に生かしていくことが大切です。

学力向上の取組の重点と具体策を明確にし、PDCAサイクルを生かして、学力向上計画を推進しましょう。



板書計画に、めあてに沿ったまとめを位置付けた授業を実践
達成目標：自分の言葉でまとめを記述できる子どもが80%以上（授業後のノートの見取り）

C 自分の言葉でまとめを記述できる子どもの割合を学力向上委員会で報告（1学期末）
昨年度よりもまとめを記述できる子どもの割合が高くなり、約70%の子どもが記述できていた。しかし、授業の内容や学級によって、自分の言葉でまとめることが十分にできていないという反省が出された。

A ベテランの先生に授業を公開してもらい、全教職員で参観しました。
校内研修主任：ベテランの先生は、子どもから出されたまとめに使えるような言葉を、まとめを書かせる前に意識付けていることが分かりました。自分の授業で実践してみようと思います。
学級担任

CA 2学期末にも同じ項目で評価・改善

「PDCAサイクルを繰り返し、子どもの学力向上に努めましょう」
(事務所Webページに掲載中)

学校いじめ防止基本方針の共通理解を図り、年間を通して活用しましょう

管内の各学校では、学校いじめ防止基本方針に沿って、子ども主体のいじめ防止活動等に取り組み、多くの成果を上げています。

本年度の事務所のいじめ防止のキーワードは「**温かな学年・学級づくり**」です。すべての子どもたちの心の居場所となる温かな学年・学級をつくることにより、いじめの未然防止を図ることが重要です。学校いじめ防止基本方針には、子ども主体のいじめ防止活動等と併せて「子どものよさを認め励ます」など、教師の日常的な指導についてもまとめられていると思います。生徒指導部会や職員会議等で、このような日々の取組について十分に共通理解を図ることで、学年・学級間で温度差のない指導を実現しましょう。

さらに、教職員や子どもへのアンケートによる取組の点検・評価等も年間スケジュールに位置付け、学校いじめ防止基本方針をより実効性のあるものにしていくことが大切です。西部教育事務所Webページには、学校いじめ防止基本方針の活用を年間通して位置付けた生徒指導資料「学年・学級経営の充実」を掲載中です。ご活用ください。



生徒指導資料「学年・学級経営の充実」より

※「いじめ防止基本方針」の活用を年間スケジュールに位置付けている例を示しています。